

無名塾主宰

仲代達矢さん



いよいよ、能登演劇堂で

第5回目となるロングラン公演が始まります。

今回の舞台に込められた思いや

能登演劇堂ならではの見どころを

稽古真つ最中の仲代達矢氏に聞きました。

七尾市の美しい景色と温泉を楽しみ、
素晴らしい劇場で芝居に感動する
心に残る演劇の旅を贈りたい。

ついに5回目のロングラン公
演が始まりますね。

はい。演目は「ロミオとジュリエット」です。北から南まで、言わば日本列島全体から来られるお客さんに、素晴らしい劇場で感動する演劇を見てもらいたい、心に残る演劇の旅にしてみたいと思っています。七尾市に

は風光明媚な景色や温泉などの自然資源が整っているの、後は私たち役者がお客さんに感動を与える芝居ができるかが重要。これから全力を挙げて、「ロミオとジュリエット」の芝居を作っていきます。

ロミオ役に進藤健太郎さん、ジュリエット役に松浦唯さんを配役した理由は？

役者は、キャリアがあるから芝居がうまいという訳ではありません。キャリアが短くても優秀な役者には才能があるんです。今回主役に抜擢した二人には、持って生まれた才能を感じました。さらに毎日の訓練を重ねて、この役をこなしてくれるだろうと期待しています。そして、同世代が演じる芝居としてぜひ若い人にも見てもらい、刺激を受けてほしい。

そこも見どころの一つだと考えています。

今後のスケジュールは？

7月20日に稽古をスタートさせ、初日1週間前から七尾市で舞台稽古を始めます。能登演劇堂での25回公演が終われば九州へ。そして全国各地を回り、合計110回の公演を行います。私たちの夏は七尾市から始まるんですよ。

注目のシーンは？

やはり舞台後方の扉が開き、中島地区の山や原っぱも舞台として取り込む場面でしょうね。そして、市民エキストラ。皆さんがざらりと並んでいる光景は、演じる側の私も毎回感動ものです。私たちはプロです。私たちが演じます



が、私たちを助けてくれるのは市民の皆さんです。皆さんの協力がなければ、「ロミオとジュリエット」の成功はないでしょう。今回もこれまで同様、市民と作り上げる演劇でありたいと思っています。

ロングラン公演にかける意気込みを聞かせてください。

私は、今年で80歳になります。これまで、私が無名塾の芝居のタイトルロール（主役）をやってきましたが、もうそろそろ次世代に手渡す時期にきていると考えています。そういう状況の中で、これからの無名塾にとって今回の「ロミオとジュリエット」は本当に意味のある作品になることでしょう。座頭として若者中心の舞台となるように、支えていくつもりです。

七尾市民の皆さんへ

地方に最高の劇場があり、演劇を見るために、全国からお客さんが訪れようとしています。もちろん、地元の人も来てくれます。日本各地からお客さんが集まり、市民とともに演劇を作る、これはほかの地域ではできない体験です。

だからこそ、私たちは面白い芝居を演じたいと思います。市民の皆さんには、ぜひいろいろな面で協力していただければと思います。

今回も、どうぞよろしくお願ひします。

